

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 3 月 10 日作成)

小委員会名	戸建住宅設計小委員会		主 査 名：福田展淳 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境設計運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：岩田三千子
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・戸建住宅の熱・光・空気・音環境について、環境工学の立場から、その先端研究の調査を進める</p> <p>・戸建住宅の居住環境を議論し設計に活かすための情報発信を行う。</p> <p>特に近年、高気密・高断熱化、24時間換気、省エネ改修など戸建て住宅の熱環境や空気環境に関する環境工学的側面が実務設計に大きな影響を与えており、その設計指針について、環境工学分野での関連論文をまとめ、情報発信を行う。</p> <p>1 年度：戸建住宅に係わる既存論文調査 発信すべき情報の整理</p> <p>2 年度：講習会／シンポジウムの開催</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無： 無 福田展淳 (北九州大学) 尾崎明仁 (京都府立大学) 高偉俊 (北九州市立大学) 中島祐輔 (工学院大学) 隈裕子 (サイバー大学) 木村孝博 (きむら設計)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2014 年度予算	115,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	昨年度に続き夏季の床下結露問題点を討議、全国でのトロンブウォールなど日射熱取得による省エネ住宅、省エネルギー基準改正にともなう伝統木造構法への影響などについて意見交換、議論を行い戸建て住宅に係わる環境工学分野での課題を整理した。達成度 85%。
委員会活動の問題点 ・課題	委員が東京、九州とまたがっており開催に際し旅費がかかり、年 2 回 (九州 1 回、東京 1 回 (予定)) の開催となった。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2014 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・**最終年度評価**)

総合評価 (4段階評価)	A	③	C	D
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>2年間で、戸建て住宅に関する環境設計の分野で、特に下記に関して議論を深めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 床下の高湿環境問題 近年の戸建て住宅は、布基礎からベタ基礎が主流となってきており、これに、換気口が併設されると梅雨期及び夏季に高湿状態になることが、幾つかの事例で確認できており、これらの結果を設計者に伝える必要があることがわかった。 2. 省エネ法改正に伴い、戸建て住宅に対しても高气密高断熱が義務付けられる状況となりつつあるが、伝統構法などの特殊な住宅に対する規制、パッシブ住宅に対する評価など、まだ、方向性がはっきりしていない項目に関する考え方 3. これからの戸建て住宅で導入が期待される省エネルギー手法について、具体的に取り組まれている事例 <p>これらをシンポジウムなどで公表することが、本小委員会の役割であるので来年度は、シンポジウムを開催し、設計や工務店など実務を行っている立場の方々と意見交流を行い、問題点の整理をしていきたい。2年目でのシンポジウム開催を予定していたが、開催回数が限られる中、議論を深める必要があった。ただし、内容に関しては意義ある議論ができたと考えている。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。